

第6回下水道グローバルセンター審議会開催概要(平成26年9月24日)

日本下水道協会は、下水道グローバルセンター(GCUS)の事務局としてその活動を支援する様々な業務を行っています。

その一環として、GCUS 活動に対するご意見やご助言をいただくことを目的に、学識経験者やジャーナリスト、並びに自治体・民間企業等の代表者を委員とする「審議会」を年1回開催しており、本年は9月24日に第6回下水道グローバルセンター(GCUS)審議会を(株)三菱総合研究所4階大会議室において開催しました。

今回は、楠田座長(九州大学東アジア環境研究機構特別顧問・名誉教授)ほか14名の審議会委員(代理出席含む)、委員随行者、GCUS 構成団体、プレス等の参加を得て開催されました。

議事では、始めに国土交通省より新下水道ビジョンに関する説明、平成25年度の活動報告として、主要国における主な活動(アジア、中東)や情報収集・マッチング関連の活動、第7回世界水フォーラムに向けた準備、国際標準化(ISO)活動、水・環境ソリューションハブの活動状況等について報告がありました。また、GCUS 森田顧問よりベトナムにおける推進工法普及活動と今後の方針について説明がありました。

引き続き、平成26年度の活動について、日本下水道協会から

- 1) 世界の水・衛生問題等の解決に向けた国際貢献
- 2) 下水道関連企業のビジネス展開支援
- 3) 国内下水道施策への還元

の3つを重点活動事項として説明がありました。

委員からは、GCUS の活動は評価できるものの、エリア戦略をはっきりさせておく・管理まで踏まえて日本の戦略を考える・ハードとソフトの重要性を示していく等の必要がある、また、国土交通省が進めている国際展開だけでなく、気候変動に対応した災害時の下水道の対応が必要になってくるのではないかとのご意見等も頂きました。

GCUS では、審議会でのご意見を踏まえて、今後とも世界の水・衛生問題の解決と我が国民間企業の水ビジネス国際展開の支援を進めて参ります。

引き続き、会員の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

